

研究・調査報告書

報告書番号	担当
335	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
<p>Do alcohol expectancies and peer delinquency/substance use mediate the relationship between impulsivity and drinking behaviour in adolescence?</p> <p>アルコールによって得られる快樂への期待や仲間の非行行動・仲間の違法薬物使用は未成年者における衝動性と飲酒行動の関係に影響を与えるか？</p>	
執筆者	
Barnow S, Schultz G, Lucht M, Ulrich I, Preuss UW, Freyberger HJ.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Alcohol Alcohol. 2004 May-Jun;39(3):213-9.	
キーワード	
アルコール、集団での非行、薬物使用、アルコールへの期待	
<p>要 旨</p> <p>目的： 本研究の目的は（1）攻撃的な行動や非行行動から、未成年期の飲酒行動を予測することが出来るかどうか、（2）アルコールによって得られる快樂への期待や仲間の非行・仲間の違法薬物使用がどの程度この関連に影響を与えるのか、について明らかにすることである。</p> <p>方法： 15歳前後の青年147人を対象に飲酒行動に関する面接調査を行った。また、彼らの仲間に関する情報を集めるために、自己記入式の質問票による調査も行った。</p> <p>結果： 問題行動とアルコール消費量・飲酒頻度との間に関連が認められた。また、この関係は、アルコールによって得られる快樂への期待によって影響されることがわかった。飲酒行動と仲間の非行・仲間の違法薬物使用との間、および攻撃的な行動や非行行動とアルコールによって得られる快樂への期待との間に正の相関関係が認められた。さらに、仲間の非行・仲間の違法薬物使用がなくなると飲酒による問題行動は格段に減少した。年齢、性、アルコール依存症の家族歴、対象者の攻撃的な行動や非行行動で調整して階層的回帰分析を行うと、アルコールによって得られる快樂への期待と仲間の非行・仲間の違法薬物使用からアルコール消費量を予測することが出来ることがわかった。</p> <p>結論： アルコールによって得られる快樂への期待や仲間の非行・仲間の違法薬物使用は若者のアルコール消費量や飲酒頻度と密接な関係が認められた。この年齢層の集団への予防や介入の方策を策定する際にはこれらのことも考慮されるべきである。</p>	